

【科目名】言語発達学		【担当教員】阿志賀 大和							
【授業区分】ST 専門言語聴覚障害学		【授業コード】5-29-1105-0-1		(メールアドレス) ashiga@nur.ac.jp					
【開講時期】2 年次 前期		【選択必修】必修		(オフィスアワー) 来校時に対応					
【単位数】1		【コマ数】8							
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>各コマの最初に小テストを行い、その点数も成績に反映するため、事前に連絡がない場合またはやむをえない事情を証明できない遅刻・欠席によって小テストを受けられなくても点数を与えない。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>遅刻、欠席、早退は学則に従う。講義中の私語は厳に慎むこと。</p>									
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>ことばは成長・発達の過程でどのように獲得されていくのか。その基礎となる機能や周辺領域の発達について理解できる。</p> <p>(方法)</p> <p>言語獲得の発達、認知の発達、生理的な基盤、コミュニケーションの発達、構音の発達などについて講義を行う。</p>									
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>言語獲得がその基礎となる種々の領域との複雑な過程を経て可能となることを理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>出生前から学童期にかけてのことばの発達の獲得順序と種々の関連領域の発達について説明できる。</p>									
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>藤田郁代監修：《標準言語聴覚障害学》言語発達障害学(第 2 版)、医学書院、2015、¥5,400</p>									
<p>【参考書】</p> <p>石田宏代、大石敬子：言語聴覚士のための言語発達障害学、医歯薬出版、2008. ¥4,620</p> <p>宇野 彰編著：ことばとこころの発達と障害、永井書店、2007. 7,350</p>									
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則規定の GPA 制度に従う。</p> <p>小テスト (20%)、受講態度 (10%、注意 1 回につき 1 点減点)、試験成績 (70%) で評価する。</p>									
【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフ ォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	20	0	0	0	0	10	100 点
評 価 指	取り込む力・知識	70	20	0	0	0	0	0	90 点
	思考・推論・創造の力	0	0	0	0	0	0	0	0
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0

平成 26～28 年度入学者用

標	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	10	10 点
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法			学修課題(予習・復習)			時間(分)	
1	言語発達概論 言語発達とは何かについて学ぶ	講義			2 コマ目冒頭の小テストにむけ、1 コマ目内容を確認			20	
2	言語発達の基盤 言語発達に必要な種々の基盤について学ぶ	講義			3 コマ目冒頭の小テストにむけ、2 コマ目内容を確認			20	
3	前言語期の発達 前語期の言語発達について学ぶ	講義			4 コマ目冒頭の小テストにむけ、3 コマ目内容を確認			20	
4	幼児期から就学期までの発達 幼児期から就学期までの言語発達を学ぶ	講義			5 コマ目冒頭の小テストにむけ、4 コマ目内容を確認			20	
5	学童期の発達 学童期の言語発達について学ぶ	講義			6 コマ目冒頭の小テストにむけ、5 コマ目内容を確認			20	
6	言語発達の各側面 構音の発達などその他の側面について学ぶ	講義			7 コマ目冒頭の小テストにむけ、6 コマ目内容を確認			20	
7	言語発達の障害 正常言語発達を理解し、その障害を知る	講義			8 コマ目冒頭の小テストにむけ、7 コマ目内容を確認			20	
8	まとめ これまでの総括を行う	講義			試験にむけてこれまでの内容を復習すること			20	

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。